

創造的破壊サミット2011特別レポート

～the synchronicity $\times 4 = \infty$ ～



原田翔太

2011年12月11日。

僕たちは、「創造的破壊プロジェクト」の一つの頂点を見た。

このレポートの筆者、原田翔太、そして創造的破壊プロジェクトにおける僕の最愛のパートナー・和佐大輔。そして、木坂健宣、吉田傑を擁して、この「集会」は開かれた。セミナーが終了した直後。このセミナーに、参加したある人に言われた。

「まるで、映画“24 Hour Party People”を見ているみたいだった。」

この映画は、セックス・ピストルズが行ったあるライブをモチーフにしている。ある夜のピストルズにライブに、その後ロックスターとなる人間が「みんないた」。そんな伝説のライブがあった、という話だ。その人は、僕らの今回の「集会」を、この映画に、重ねてみたのだそう。

▼24アワー・パーティ・ピープル <http://amzn.to/sSgTsy>



きっと何か生まれる気がする。
その胎動を僕らも確かに感じた。

ザ・シンクロニシティ。

創造的破壊プロジェクトは、この日を境に、新しい領域に突入する。ある意味でいえば、2011年年初から展開してきたこの活動は、一度ここで終止符を打つことになる。その前に、ターニングポイントとなるであろう「創造的破壊サミット」とは、いかなるものであったか？参加していない人たちにも、その模様を共有したいと思い、筆をとることにした。



2011年11月某日。都内某焼き肉店にて、4人の男たちが集まり、酒池肉林・・・もとい、肉を囲んだ談笑的打ち合わせが行われた。

集まったのは、「創造的破壊プロジェクト」の主催者である原田翔太と和佐大輔。
そして、「イノベーション100」の吉田傑氏。
アンダーグラウンドのカリスマ変態・木坂健宣。

創造的破壊サミットが画策された裏舞台である。

店につくなり、「えーと、杏仁豆腐。あと、カルビビビンバ・・・あとは～」
注文順番がおかしい。

この常道と大きく行動を異にするところこそ、このメンバーが集まった理由でもある。

「ふつうであること」への大前提を覆すような、体験をもたらす。
それが、今回のサミットで意図した一つの体験的価値だ。

2012年以降、時代に愛され、大ヒットするビジネスを生み出すために...

2011年12月11日（日）都内某所
4人の業界の異端児たちが語る、
時代を読み、時代に愛され、
時代を変えるための方法の全てを
公開するサミットを開催します
和佐大輔／原田翔太／木坂健宣／吉田傑

告知はなんと、わずか10ページちょっとのPDFで行われた。
にもかかわらず、200名を超える受講者が殺到。
急遽会場を拡大し、開催することになった。

イベントのテーマは、「時代」。

こんな世相だからこそ、あえていま、「時代」を語ろうと。
時代を語れる（であろう）人選を行う必要があった。

魑魅魍魎が「金」の話しかしないネットビジネスの世界で、
「時代」を大手を振って、堂々と語れる人物はそう多くはいない。

僕らが「腐敗臭」と呼んでいる臭う輩には、この舞台の大役は依頼できるわけがない。

その点で、文句なしに木坂氏、吉田氏という業界でもギークス中のギークスにスピーカー
をお願いすることにした。彼らならば、彼ら一流の時代感と、メッセージを伝えてくれる
だろうと。



サミット当日がきた。

朝 10 時から、スタッフミーティング。今日のチーム原田のイベントリーダーは、原田のところに弟子入りしてコンサル修行中の山田君。

こいつは、いつもはふにゃふにゃして捉えどころのない「だめなヤツ」として通っているのだが、今日の表情はちがった。若いスタッフたちを束ねる、リーダーの顔つきになっていた。



受付ブース完成。

ピースサインの彼女は、お笑いを目指して東北から上京。
お笑い修行の傍ら、いまビジネスの勉強をしているのだそう。

この日のスタッフは、全員20代前半の若手が手伝ってくれた。
忙しい中、本当に感謝だ。ありがとね。



受け付け開始。一番早い人では、開始 2 時間前から会場でスタンバイをしていた人も！
開始前から、すでに会場付近には異様な磁場が形成されていた。



会場はこんな感じ。超満員。

かなり熱気むんむんで、真冬なのにじわりと汗がにじんできました。



講義開始！トップバッターは、原田。

テーマは「小っちゃな革命宣言。」

「小っちゃな革命」とは、最近の原田の活動のタグライン。

「創造的破壊」という自ら生み出した言葉の次元昇華形であり、事務所の壁にも一面に大きく「小っちゃな革命宣言」のコピーを印刷したグラフィックウォールをつくった。

次に出版予定の本のテーマでもあったりする。

これから2～3年かけて、僕はこの「小っちゃな革命」という考え方、生き方を世の中に広めていこうと思っている。



普通のセミナーでは、まず話をしない「ウルトラ怪しい話」をこってりと。

たとえば星の話。

たとえばスピリチュアルの話。

プラグマティック（実用的）であることを是として、話をしてきた僕が、なぜこんな途方もない話をするのか？

会場に足を運んできてくれた人は、もう分かると思うけど、ここから先の時代の不透明さを読み解くための”教養“なんだよね。

実は「怪しい世界」にも足を踏み込まないと解決しない。

これは、僕だけじゃなくて、和佐大輔とも一致している考えだったりする。

（彼もまた、「怪しい話」をした。）

そう、サンテグジュペリが「星の王子さま」で伝えるとおりに、

「目に見えること」の範疇にあるものなんて、実在する世界のほんの「これっぽっち」でしかない。そういうことだと思っただ。



みんな真剣。

いや、真剣なふり？

いやいや、真剣なんです。



休憩時間は、販促ブースを開設。

講師関連書籍や、会場限定で「創造的破壊プロジェクト」関連の教材を販売した。

まだ公開していない未公開教材も、この日先行販売をした。

おそらく、近日中にみなさんの前にもお披露目できるかと思う。楽しみにしててね。



これが「創造的破壊の書」。

僕らのプロジェクトにおけるフラッグシップ教材「創造的破壊メソッド完全習得合宿セミナー」（定価20万円）の特典として、購入者だけが手にすることができる禁断の本だ。笑

基本的に常時販売はしていないので、手に入れられるタイミングはものすごく限られているけど、もし興味があったら、たまにオファーしているので手に入れてみて下さいね。

僕と、和佐大輔の言葉がこれでもかというくらい、500ページ以上にわたってぎっしりつまっています。完全自作の「最強の同人誌」です。笑



「創造的破壊の書」を手にするスタッフ。

こらこら、立ち見はいかんぞお〜！

うそ。この日だけは立ち見OKにしたのです。

で、かなりの人にお買い上げ頂きました。^^

ありがとうございます。



吉田傑さんの講演。

事前アンケートを見た結果、急遽テーマを変え、「吉田傑自伝」に。

会場で聞いた人は、詳しい経緯を知っていると思うけど、現在彼の職業は「イノベーション100」を標榜した、ビジネスのイノベーションの専門家。

僕と極めて近い領域を仕事にしているコンサルタントだ。

実は、彼の前職は・・・なんと、「トラック運転手」。

しかも、ゴリゴリにハードな長距離の。

イメージできます？

ガテン系職代表の「トラックの運ちゃん」が、知的産業の代表たる「コンサルタント」になったわけです。

なぜ？そしてどうやって？この経緯を事細かに、そして本邦初といってもいい告白と共にご本人の口から語られました。素朴で、淡々とした、けども芯に情熱のともる語り口に、多くの人が勇気づけられたのではないかと思います。



現在吉田傑さんの講演中。

セミナー開始から遅れること2時間。

木坂健宣が、堂々の午後参上。笑

三人でくだらないことを談笑する。

対談ではビジネスの話だけど、基本的にプライベートではビジネストークは一切ないのだ。

たいがい趣味的なしょうもないことを延々語り続けている気がする。



木坂氏控室へ向かうの図。

木坂氏と会ったのは本当に久しぶりだった。

初めて彼と直接会ったのが、和佐大輔と木坂さんが「ネットビジネス大百科」を1万本販売したときに、和佐家+木坂さんというごくごく身内でおこなった記念祝賀会にて。

なぜそのとき家族以外で、僕と彼らのプロジェクトのライティングエキスパートをつとめた山口さんというライターさんがいたんだよね。それ以来だったので、久しぶりに再会した木坂氏とは、よもやまなことを控え室で談笑をした。



木坂氏講義するの図。

彼をご存じの人は、ご存じの通り、いつもの木坂節炸裂。

この業界のミスター叡智なわけだけども、今回も期待を裏切らず、白熱した知的究極形を僕らの前に示してくれたと思う。

示し合わせたわけではないのに、僕の講義とうりふたつのキーワードがいくつも出てきていた。

たしかに同じようなことを伝えている部分があるし、キーワードもかなり重複していた。これがシンクロシティだ。時代を感じ、捉え、結局全然違うものをみて、全然違う思考プロセスをたどるのだけでも、言語化したときに同じような問題意識を共有している。

セミナーの主題を、見事に講師が、偶然的にせよ体現した。その偶有性に導かれた共時感覚に「驚きました。」とのご感想を頂きました。でしょ？面白いんだよ、シンクロしちゃうから。



いつも通り、俯瞰視点から、「時代」を語ってくれました。
演題は「4 + 1」。時代を読み解くための視点を4つ + α という感じで伝えてくれました。

先ほども書いたけど、受講者からはこんな声が届いていた。

「2つの講義が相関的になっているから、両方聞いてはじめて補完できるような気がしました！」

キーワード重複率は僕の話が一番多かったと思うけど、実は、2つだけじゃなくて4人の講義が全部シンクロしていたんだよね。原田、吉田、木坂、和佐。この4人の講義を全て通して聴いて、初めて見えてくるものがある。あるいは、4つを通して聞いたとき、ふっと頭に浮上してくるキーワードがあるはず。

よく聞くと、分かるのだけど、全員同じキーワードを無意識で使っていたんだよね。
もちろん、講師同士でお互いが何を話すかという細かい事前共有などない。
完全なる偶有性による一致。これがシンクロニシティ。共時性。

意識はシンクロする。そして、シンクロした集合意識が、「時代の空気」を形成していく。



和佐大輔講義の図。古くから彼を知る共通の友人が、セミナー後にぼつりと漏らした一言が印象的だった。

友人：「大輔、変わったねえ。」

原田：「ね。どこが変わったと思う？」

友人：「熱くなった。いい意味で。情熱っていうか、なんか熱さが宿ったなあと感じたよ。」

僕も同じように思う。この日の彼の演題は、「生と、死」について。一昔前の彼からは、こういう生々しい「人間」についての話はあまりなかったように思う。ある種、僕にとって彼というのは（同時に、彼を知る多くの人たちが彼について同じように評するのだが）、ものすごく無機質的というか、超人間的（つまり人間くさくない）というか、良くも悪くも極めて合理的で、感情表現の少ない人間だった。少なくとも、あるときまでは。それが、殊に最近、ものすごくエモーショナルで情動的な発信をするようになった。

きっと彼の中でも、「生と死」が共存してきたように、現代人としてきわまって合理的な部分と、割り切れない人間くさい部分。あるいは、それは彼の身体的ハンディキャップからくるものかもしれないが、ある種の「こだわり」とある種の「あきらめ」の共存、そういった二律背半した、対極にある命題同士を、同時に成立させることができるようになったということなのかもしれない。少なくとも、彼をいま、一番近くで見て、知る人間として、僕の目にいま和佐大輔はそんな進化を遂げたように感じている。



今回の和佐大輔は、いつもに増してニコニコしていた気がします。

僕に言わせれば、彼は「天使」。

ちなみに・・・今回はじめて 4 人をいっぺんに見た、クラブ生（僕らの主宰している創造的破壊プロジェクトのフラッグシップコミュニティ）は、こんな風に 4 人を評してくれました。

4 人の印象をまとめると、

原田さん→悪の帝王（悪魔なのに繊細）

木坂さん→野獣（魔法をかけられている）

吉田さん→リボンの騎士（正義のために命をかける）

和佐さん→エンジェル（可愛いので近づくと矢を放たれる）

という感じデス。

4 人が大好きなのですが、

なんか、失礼があったらゴメンナサイ。

だそうです。

みんなはどう思う？



講師側から見るとこんな感じ。すごい密度・・・！



後ろからの図。



講義もフィナーレへ。
各講師から、一言ずつ「締め言葉」をもらった。



吉田さん締めという言葉の図。



原田締めという言葉の図。

前髪がうるさい。



今回の講師全員で記念撮影。

左から、原田翔太、和佐大輔、吉田傑、木坂健宣。

謎の座組となった今回のイベントだけど、根っこでこの4人はどこかつながっているから集ったんだろうと思う。

それは、おそらく、「固執するもの」あるいは「ゆずれないもの」へのこだわりと、そこに注ぐ情熱、愛情の強さ。

その「絶対領域」をそれぞれが持ち、ゆるやかにシェアできる仲間同士だからこそ、今回のコラボレーションが実現したのではないかと思っています。有り体な表現でいえば、こういうのを、ある種の「マスターマインド」と呼ぶのかもしれませんがね。



懇親会だー！夜もヒッパレー！

懇親会も、セミナー会場となった「フォーラム8」で。

フォーラム8は、多くの起業家にとって、セミナーのスタートアップになる場所。
それだけに、若干古びていて少しぼろっちい。

今回実は、全くここを使う予定はなくて、本当は六本木ベルサールだとか、神戸のディスコを改装した会場とか、あるいはホール系、映画館系の会場を抑えようと思っていたのだけど、なんと1ヶ月前からどこも規模感のある会場はソールドアウト状態。

泣く泣く、フォーラム8にしたのだけど、やっぱり僕にとっても、彼にとってもこの会場は、ある意味すごく原点的な場所なんだよね。

そこ「しか」あいていなかったというのも、何かの共時性（シンクロシティ）のような気がしてならない。うん。



参加者と談笑する吉田さん。

赤いネクタイと、赤いチーフがおしゃれ。

「かっこよくなきゃだめでしょ？憧れられないものは、選びたくない。」

吉田傑という人は、柔和で男前ないでたち+立ち振る舞いの裏に、強烈にものごとにこだわる職人氣質をもった男。

こだわり抜くクリエイティブマインドに、僕らも彼を追いかけずにはいられないのです。彼をフォローする人たちの多くが、彼のそんなところに注目しています。



木坂さんの大ファンで、和佐・原田につきまとう、うざキャラかわいがられ専門のヒロト。最近の大学生界限で、彼はカリスマらしい。一緒にピースするのは、和佐兄こと薫君。いつも地味なサポート、ありがとね。



クラブ生たちも、応援にかけつけてくれました。
もとい、勉強にしにきてくれました。

「創造的破壊クラブ」というのは、僕たちの愛する「ファミリー」のこと。

ただのコンサルタント-クライアントという関係を超えて、
離れていても、ずっとつながっている愛すべき人たちです。

(少なくとも、僕らは、そういうスタンスで彼らとつきあっています。^^)

腕組みをしているのが、僕らもちよいちよい方々でご紹介している「スマサガ不動産」代表の城戸さん。不動産業界に「創造的破壊」を起こすべく取り組んでいる、業界の革命児です。



ん？和佐大輔が変身したぞ！？

天才車いす少年の正体は、実はとなかいであった！



現在、新しきを生みだすため、自己破壊に苦悩するクラブ生の西部さん（イベントプロデューサー）と、チーム原田の腕利きデザイナー・はせきょー。何を隠そう、「創造的破壊の書」は、この子とともに生み出したのだ！外部創造的破壊ファミリーです。



珍しく参加者と熱っぽく交流していた木坂さん。

懇親会は3時間、終始ソフトドリンクだけで名刺交換の行列に、語り切っていました。



わらわらわらわら。若者たちが、なにやら悪巧みをしておる様子！危険！危険！笑



ん？山田くんもトナカイに変身したぞ！？



吉田傑さんも！？何がはじまるのか・・・



木坂健宣まで！？

(実は、ごり押しで弟子の山田君が土下座をしてかぶってもらったのだ！)



こたえは、じゃーん。ビンゴ大会！

景品総額 50 万の超豪華プレゼントを当てようの会を行いました。ここで還元してしまっているの、今回のセミナーの利益、ほとんどないのです。

そうそう、会場で、こんなことを何回も聞かれました。

参加者：「今回のやつって、バックエンドとかあるんですか？（あるんですよね？当たり前のように・・・）」

私：「ないよ？」

参加者：「へ？」

私：「へ？」

こういう会をフロントセミナーにしたことがほとんどないのですね。

基本的に僕も和佐大輔も商売下手くそだと思います。

今回のセミナーは、単純に「うーん。なんかサミットって感じだな。よし、サミットやろうぜ！」、「いいですね！やりましょう！」

こんな感じで始まり、文字通りそのまま終わっています。笑



ビンゴ♪ビンゴ♪ビンゴ♪

はふはふ！ほくほく！

みなさま、豪華景品に、ふーふー言いながらビンゴシートに穴を開けまくっていました。



ビンゴの人～！前へどうぞ～！

コスプレしているのは、全員スタッフ&関係者です。
木坂さんのサンタ姿が、実にシュール。笑



同時ビンゴの場合はじゃんけん制。

買った人は、超豪華景品。

負けた人は、おおはずれ景品。

もれなく当たります！



今回は、ゲスト講師の二人に、【「時代」を読み解くための一冊】ということで、今回のセミナーのテーマにあった選書をしていただきました。

手にしているのは「自我の源泉」
9500円くらいする本です。

この本、僕も過去に読んでいますが、これは確かに名著。
やたら長くて死にますが、読み解く価値あり。



「創造的破壊 iPad」を手に入れた！！
世界に1つだけ。僕らですらもっていない激レア品です。



「創造的破壊 iPad」について説明をする原田。

この日のために、Apple にカスタムオーダーを出して、作っておいてもらったのです。
詳細は・・・この手に入れた方だけの「秘密」♪^^



一等賞の「創造的破壊 iPad」を手に入れた方と記念撮影。パシヤリ！



吉田選書は「シンプルシティの法則」。
僕もこの本に、一つ、今という時代への回答をもらった一冊だ。
すごく吉田さんらしいなあと思うセレクトだと思った。
帽子がかわいいね吉田さん。はあと

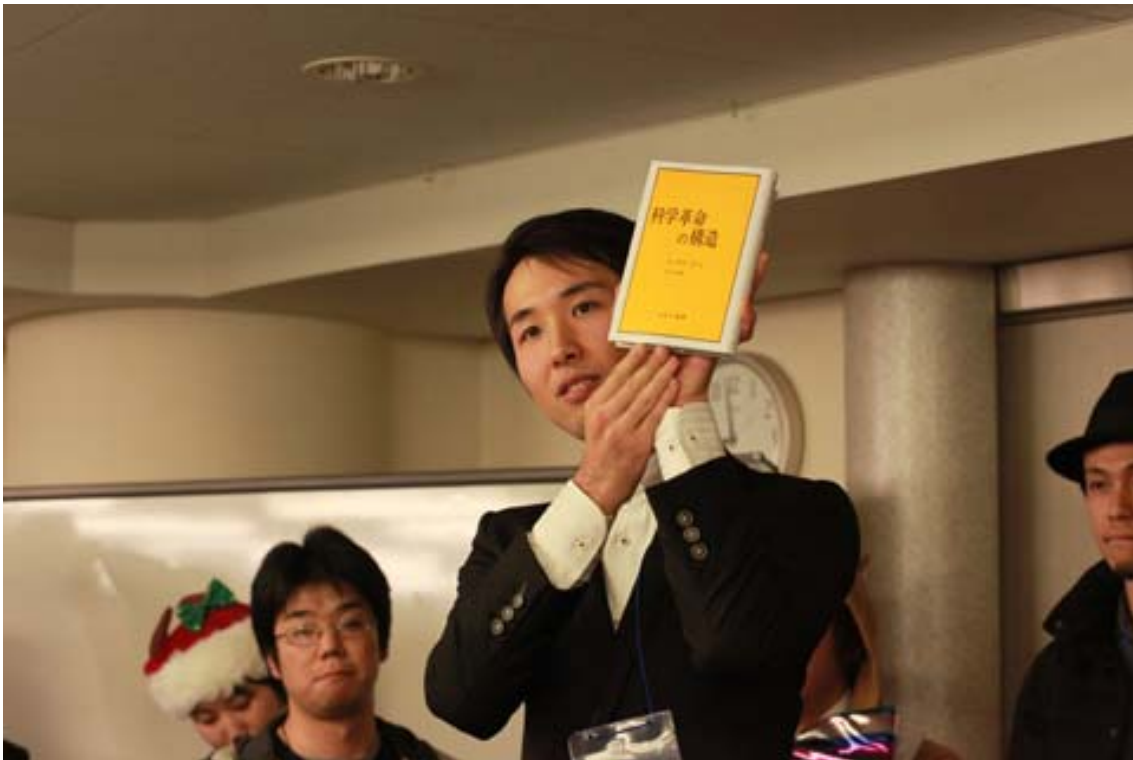


原田が実際に使っている電子デバイス類をプレゼント。

マウス、キーボード、モニターヘッドフォン、ウェブカメラ、iPhone 用外部電源などなどなど・・・

実はものすごく家電おたくなので、一つ一つのセレクトには合理的意味があったりする。

クラブ生には、どういう理由で、どういうセレクトをしているかという細かい話もしているんだけど、とにかく仕事効率をあげるで、質の高いアウトプットを行うためのツールを揃えていくこと。僕の、ちょっとしたアクセサリ類に対するこだわりは、そういうところに焦点があったりします。



こちらは、木坂選書、「科学革命の構造」をゲットされた方。

木坂さんは3冊、吉田さんは1冊をセレクト。

和佐大輔のセレクトは、もちろん「映画」と「漫画だった。^^



はいはいはいはいー！俺にくれー！！

ビンゴの景品も残り少なくなるころ・・・まだ景品を手に入れていない者たちによる、壮絶な景品争奪戦が繰り広げられたのであった。



創造的破壊プロジェクト主宰の2人の図。

思えば、かれこれ彼とパートナーシップを結んで1年が経つ。

早かったなあと思う反面、そうかまだ1年か、という思いもある。

お互いが知り合ってから5年以上の月日が経つのに、深く関わり、時間を共有するようになってからは、まだ1年なわけで。

ただ、おそらくこの1年のために、これまでの彼との5年間があったような気がしている。実利的な利害関係「以上」のところで結ばれた人間とでなければ、深く想いを届けるといふこの活動はできなかつたように思う。

もう、最近彼と話すことといえば、今どんな映画を見ているとか、こういうAVビデオがおもしろいとか、こういう音楽が最近イケてると思うとか、「今」興味関心を抱いているものについて。あるいは、彼がどんな漫画を将来描きたいか、とか原田がどんなバンドを作るか、どんな小説を書こうとしているのか、とかお互いの趣味&未来の「仕事」のことばかりだ。

ビジネスについての作戦会議は、ものの10分、15分で終えて、たいがいそんなとりとめもない話を、延々としている。そんな2人です。近日、お互いがお互いを語り合った謎の趣旨の対談が公開されるみたいなので、こういう話に興味がある方は、是非お楽しみに。

編集後記

いま、僕らが共有できること。それをシェアする。そこから「いま」という時代を読み解くための一つの仮説的回答を行う。それが今回の集会の大きなテーマだった。まあ、良くも悪くもお金の臭いのしない、儲からない話ばかり。笑 そして、そこに意味と価値を見いだして集まってくれた人たち 200 名。どのように受け取ってくれたかは、各々の胸の内だけが知るところだけでも、確実に、時代はいま、一つ方向性へ集約しつつあるように感じている。

その現象に名前をつけるとすれば、おそらく「シンクロシティ」。僕たちは、リストビルディング大百科でも語ったとおり、約半年前から、「融合」が次の時代のキーワードだと示してきた。その主張を証明するように、「水と油」みたいな関係性、あるいは「絶対に交わることがない領域」同士が、なぜか同時成立してしまうことが増えたように感じている。

自分では最初は気づきもしないような、よく分からないひょんなきっかけから、意外に感じるような不思議な「ご縁」で結ばれている・・・そう感じるものが最近増えたような気がしないだろうか？少なくとも、僕は、その「引き合う力」みたいなのが、急激に磁力を増したかのように強くなっていることを感じていて。

確かな技術を培ってきたある世界を極めた/極めんとする人たちの中から、そのシンクロがはじまっている。つまり、自分たちの手にある卓越した技術に加えて、明確なビジョンを持ち始めた人たちから、ある種の次元昇華がはじまっていて、彼ら同士で手を結びあい、世の中の「異世界」同士をつないでいく。

そう。「気づいた人」から、融和がはじまっているんだ。

そんな深く、互いの内面に孕んだ情熱や、指向性同士がクロスし、深くシンクロナイズしていく、タイミングなんじゃないかしら、と思ってやまない次第であります。

あなたと、誰か、あるいはあなたの何かと、他の何か同士の融和が生み出す∞（無限）の何か。その未知との遭遇を、楽しんでいく中で、新たな時代を僕ら自身の目でみにいきましょう。もう少しで、きっと全部がつながって、生まれ変わるはずだから。

原田新太

創造的破壊サミット2011特別レポート

～the synchronicity × 4[∞]～

▼原田翔太関連サイト一覧

本レポートの作者の関連サイトです。レポートを読んで興味をもって頂けたら、ぜひ覗いてみてください！

原田翔太公式サイト <http://www.web-senryaku.com/>

原田翔太 twitter <http://twitter.com/shotaharada>

原田翔太 facebook <http://ja-jp.facebook.com/harada.shota>

原田翔太公式ブログ <http://ameblo.jp/arienaimarketing/>

原田翔太メールマガジン（無料） <http://www.web-senryaku.com/mm/>

原田翔太365日語録（無料） <http://www.web-senryaku.com/365/>

執筆：原田翔太

発行：株式会社ユナイテッドリンクスジャパン

発行日：2012年12月22日

Copyright (C) 2011- UNITED LINKS JAPAN Inc. All rights reserved.

本書内の文章、写真などの無断転載、流用を禁じます。
